

(1)は、表裏にそれぞれ「是」「京」字を一行に書いた習書木簡である。上端が折損、下端が二次的にキリオリのため原形は不詳であるが、遺存部分は短冊形を呈する。「是」と「京」とは筆の太さが異なり、あるいは別筆かと思われる。また、「京」は字の全体がわかるものが少ないが、三字めは字体を変えて「京」に作り、その四画めの運筆も一字めとは異なっている。長岡京跡左京第二二〇次調査SD一二〇二八で、同じように「□□ 是是是」と一行に習書した木簡が出土している(本誌第八号)が、本例の方が繊細な字体である。

(2)は、上部が圭頭を呈する木簡の上端左半と考えられる。下端は黒く焦げており、本例はその焼け残りの部分である。

## 9 関係文献

野島 永・岩松 保「名神高速道路関係遺跡」(財京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府遺跡調査概報』七八 一九九七年)

(野島 永・堀 大輔)

京都市埋蔵文化財研究所編集・発行

『長岡京左京出土木簡二』(京都市埋蔵文化財研究所調査報告 第一六冊)の刊行

(財)京都市埋蔵文化財研究所による長岡京跡の調査で出土した木簡の待望の報告書が刊行された。一九八八年から翌年にかけて長岡京左京一条三坊六・十一町で出土した木簡を中心に、同研究所設立の一九七六年から一九九五年までの間の一一地点の調査で出土した木簡七〇二点(うち削屑五三九点)を収める。

考察として、「左京第二二〇三次調査出土木簡の性格」(橋本義則)、「杣・木材の漕運・京内の津」(百瀬正恒)、「木簡の保存処理の方法と問題点」(岡田文男)などを併載する。

A4判 箱入り

本文編 一七〇頁カラー図版二頁

図版編 モノクロ図版六〇頁(原寸写真、高精細印刷・中性紙使用) 限定五百部(残部僅少)

価額四五〇〇円(送料一〇四冊五〇〇円、五冊以上一〇〇〇円)注文先

日本写真印刷株式会社

〒六〇四一八八七三 京都市中京区壬生花井町三

電話 〇七五八二一八二一

FAX 〇七五八三三五三二